

3-C

したまつ 仕立て松の巨木

「仕立て松」とは、人工的に造った樹形の松で、庭園文化とあいまって、庭師によって造られたもの。クロマツが多く、中にはアカマツやゴヨウマツもある。

■仕立て松の巨木の評価基準

- A 樹冠の周囲がおおむね 80m 以上ある仕立て松、同等評価の仕立て松。
- B 樹冠の周囲がおおむね 50～80m ある仕立て松、同等評価の仕立て松。
- C B 評価以下の仕立て松



▲写真 SM-004

はぎわら おおかさまつ
萩原の大傘松

八木家の前庭にある巨大な仕立て松である。広がる枝の背丈が低く、内部には人は立てない。

前橋城主から拝領した鉢植を庭に移植したものという。松が成長する度に母屋を建て替える事三回。努力の結晶のような松である。(写真・Web 画像)



写真 SM-005

せきね
関根の松

町立図書館の横、南部藩の御野馬別当をつとめた一戸家の屋敷の庭にあった。現在は小公園として整備されている。



写真 SM-006

うすぎぬ かさまつ
薄衣の笠松(一号株)

小公園に3本の笠松があり、その最大株である。2mで3分岐し、まるで笠のように枝葉を広げている見事な樹形の松である。

■仕立て松の巨木

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	影向の松 写真 SM-001	3.6m 東西 30m 南北 27m	8m	東京都江戸川区東小岩 善養寺	国
A	連取の松 写真 SM-002	2.3m 東西 35m 南北 18m	5m	群馬県伊勢崎市連取町 菅原神社	県
A	円成寺のみかえり松 写真 SM-003	M4.55m(1.3m 2010) 東西 33m 南北 35m	12m	福井県若狭町岩屋 円成寺	県
A	萩原の大笠松 写真 SM-004	不明 東西 20.5m 南北 18m	7m	群馬県高崎市萩原町	県
B	関根の松 写真 SM-005	3.0m 東西 20m	6m	青森県三戸郡三戸町川守田字関根	県
B	薄衣の笠松(一号株) 写真 SM-006	M5.07m(1.3m 2008) 東西 13.5m 南北 10m	7m	岩手県一関市川崎町薄衣字柏木	県
B	連取の松(二代目) 写真 SM-007	1.8m 東西 24m 南北 25m	4m	群馬県伊勢崎市連取町 菅原神社	県
流出	村上道慶塾の赤松 写真 SM-008	3.17m 東西 13.4m 南北 25.4m	9m	岩手県陸前高田市高田町栃ヶ沢 16	市
B	永安寺の雲竜の松 写真 SM-009	根周 3.9m 東西 17m 南北 24m	4.5m	愛知県安城市浜屋町北屋敷	県
C	双竜の松 写真 SM-010	3.5m	8m	山形県西村山郡河北町谷地	町
C	御蔭の松 写真 SM-011	4.0m	6m	福島県伊達郡桑折町字上町 無能寺	町
C	霞ヶ城公園の傘松 写真 SM-012	3.9m	4.5m	福島県二本松市郭内 霞ヶ城公園	市
C	二本木の笠松 写真 SM-013	3.5m	6m	栃木県矢板市上伊佐野	市
C	遠照寺の鶴松 写真 SM-014	3.22m 東西 9.7m 南北 7.9m	5m	山梨県北杜市須玉町穴平 2629	県
C	遠照寺の亀松 写真 SM-015	3.0m 東西 5m 南北 8m	3m	”	県
C	飛竜の松 写真 SM-016	3.15m	4.4m	青森県青森市六枚橋	市
C	石神の松 写真 SM-017	3.34m	7m	長野県中川村大草	村
C	龍神の松 写真 SM-018	1.5m	2m	青森県階上町赤保内寺下 8 寺下観音	なし
C	臥龍の松 写真 SM-019	3.0m 東西 18m 南北 20m	5m	山形県村山市大字大久保	なし
C	妙仙寺の臥龍の松 写真 SM-020	根周 2.5m 東西 11.5m 南北 12.3m	6.7m	愛知県日進市岩崎町	市
枯死	岡野松 写真 231㉔	8m(3 分岐幹合計) 東西 34m 南北 40m	7m	香川県さぬき市真覚寺	県
枯死	円通寺の松 写真 231㉔	3.6m 東西 31m 南北 20m	10m	香川県綾歌郡宇多津町田町北	県
枯死	本覚寺の左右の松 写真 SM-021	2.5m 東西 18m 南北 18m	5m	山形県村山市楯岡楯 3712	県
枯死	萬休院の舞鶴松 写真 SM-022	3.7m 東西 19m 南北 15m	8.6m	山梨県北杜市武川町三吹	国



▲写真 SM-001

ようごう
日本一見事な松 影向の松

香川県の「岡野松」と日本一の座を争ったが、大きさに劣っているとされた。しかし、1992年に岡野松が枯れ、日本一見事な松として推挙された。樹下にその石碑がある。一本一本の枝まで、職人の手が入っている。どれ程の手間をかけて育てていったものか。日本人の



連取の松全景



美意識の高さを改めて認識できる貴重な文化遺産である。広い境内の半分程を覆い尽くし、その占有面積は800平方メートルにも及ぶ。樹冠の周囲はゆうに100mを越え、日本一見事な松として、他の追随を許さない存在である。

(写真・パノラマ撮影)



▲写真 SM-002

つなとり

連取の松

伊勢崎市、高崎市、前橋市が交差する辺りの、利根川と桃ノ木川に挟まれた平野に小さな菅原神社があり、広い境内いっばいに枝葉を広げて連取の松がある。この松は、享保二年(1717)に現在地のすぐ南方にあたる蕪塚町の諏訪の原から移植したといわれている。その姿から「笠松」とか「天神松」などと呼ばれている。江戸時代、この地方は旗本駒井氏の領地で、移植したのは代官の飯島一覚といわれている。

樹高は5mと低いが、枝張りは東西35m、南北18mに及び、枝張りの全周は85m。樹勢がよく、現在が最盛期ではないかと思われる見事な松である。(写真・パノラマ撮影)



写真 SM-003▲▶

日本一雄大な松

えんじょうじ
円成寺のみかえり松

樹冠の周囲が100mもある。この松の特徴は、樹高が高く、主幹から12本の大枝が立体的に水平に出て、巨大な空間を造っている事だ。しかも、仕立て松ではあるものの、自然の荒々しさを残していることが特徴で、根元に立って見る雄大さは他の追随を許さない。伸びる大枝の太さも尋常ではなく、太さ2m程が2本、1m程が3本あり、日本建築の太い梁を連想させる。

寺伝によれば、1751年に淳長大和尚が植えたと言われ、樹齢300年。寺の前の広大な広場に、何の保護策もとられずに立っている姿は、自然児そのものだ。枝の先端が反り上がるように伸びている姿は、この松の勢いを物語っている。



▲写真 SM-007

つなとり
連取の松(二代目)

連取の松の近くに二代目として植えられているもの。



◀写真 SM-008

むらかみどうけいじゅく
村上道慶塾の赤松

2011.3.11、東日本大震災の津波で流出した。根元近くで3分岐し、大きく枝葉を広げていた。(写真・Web画像)

▲写真 SM-009

えいあんじ がりゅうのまつ
永安寺の臥龍の松

寺の境内にあるクロマツの名松である。これも、自然樹形を保ちながら仕立てたものである。(写真・Web画像)



▲写真 SM-010

そりりゅう
双竜の松

各地に同名の松があるが、これは高林寺の庭にあるもの。分岐幹が地面を這うように伸びる。(写真・Web 画像)



▼写真 SM-013

にほんぎ かさまつ
二本木の笠松

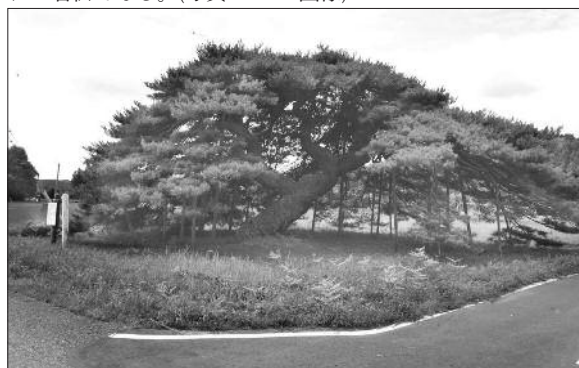
道路脇にあり、地元民によって育てられた名松である。(写真・Web 画像)



◀写真 SM-012

かすみがじょう かさまつ
霞ヶ城公園の傘松

公園の中腹にあり、別名「八千代の松」とも。(写真・Web 画像)

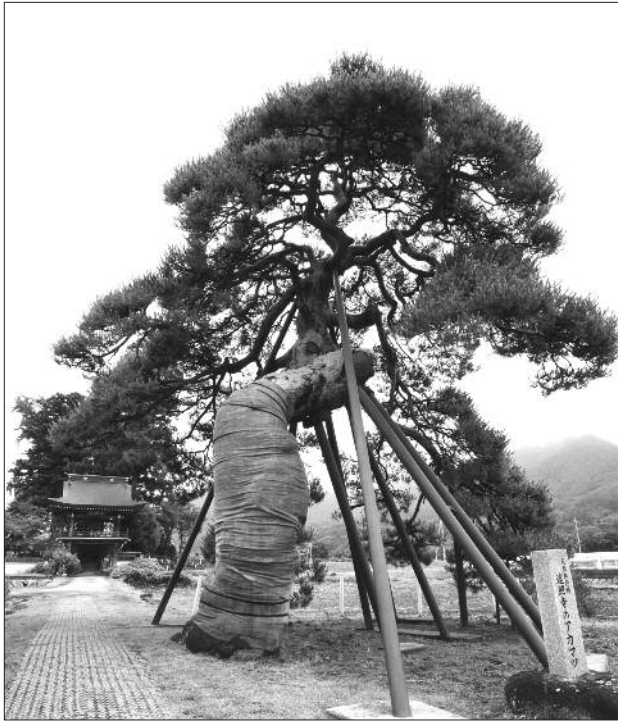


◀写真 SM-011

みかげ
御蔭の松

無能寺本堂前にある見事な笠松である。

(写真・Web 画像)



▲写真 SM-015
えんしょうじ つるまつ
遠照寺の鶴松

山門前の広場に、アカマツの仕立て松が一对あり、それぞれ鶴松、亀松(右写真)という。



▲写真 SM-016
えんしょうじ かめまつ
遠照寺の亀松



◀写真 SM-017
いしがみ
石神の松

高台にあり、地表と2mから多数に分岐幹を出し、見事な樹形を呈している。(写真・Web画像)

▼写真 SM-018
りゅうじん
龍神の松

地表と1.5mで多数に分岐幹を出して、見事な樹形を形成しているアカマツ。(写真・秦広志)



▼写真 SM-019
がりゅう
臥龍の松

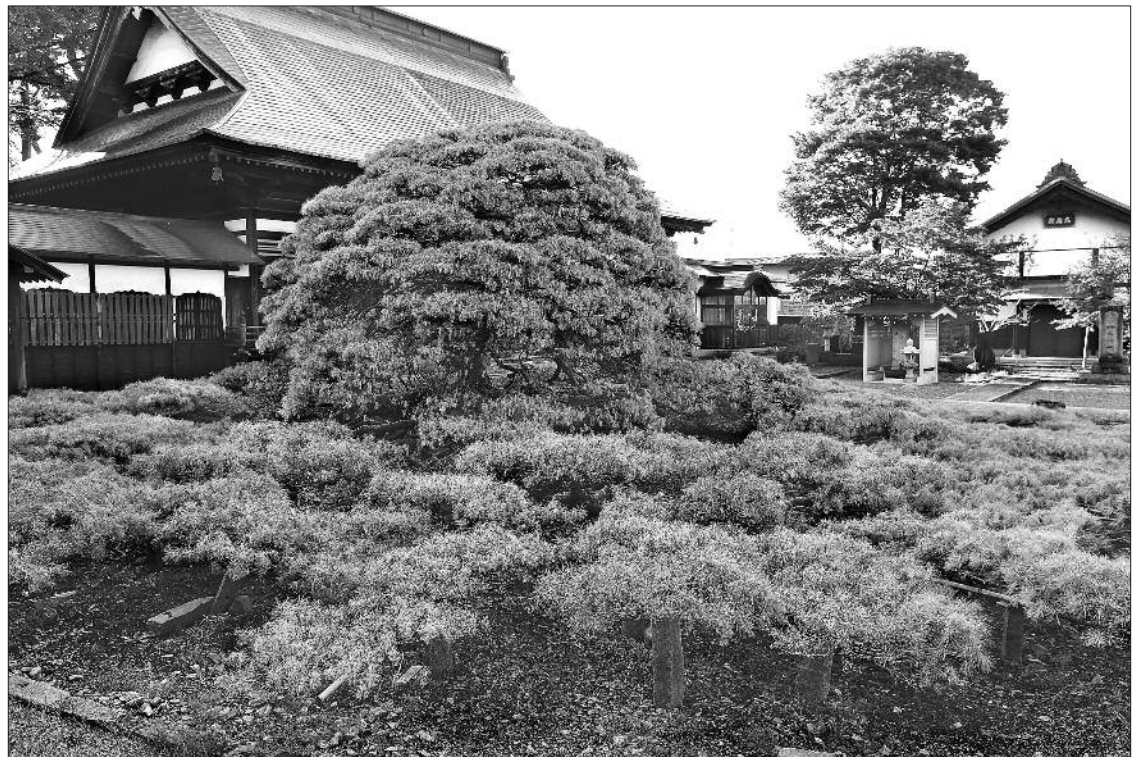
高谷家の庭園にあり、地表に龍のように幹を広げている。(写真・赤司裕宣)



◀写真 SM-020
みょうせんじ がりゅう
妙仙寺の臥龍の松
 (写真・Web画像)

▼写真 SM-021
ほんがくじ きゅう
枯死 本覚寺の左右の松

本覚寺の前庭境内にある見事な松であるが、2015年枯れ始めた頃に偶然訪れた。ほとんど茶色の葉となっていた。



▼写真 SM-022 枯死 ばんきゅういん まいづるまつ
萬休院の舞鶴松

枯れ始めて、葉が全て落ちた状態の舞鶴松。伐採の前、偶然訪れた。2007年撮影。

